



平成26年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年4月30日

上場取引所 東

上場会社名 シミックホールディングス株式会社

コード番号 2309 URL <http://www.cmic-holdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 中村 和男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員CFO (氏名) 望月 渉 TEL 03-5745-7070

四半期報告書提出予定日 平成26年5月9日 配当支払開始予定日 平成26年6月16日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第2四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第2四半期	25,506	1.2	1,743	△33.1	1,741	△32.0	745	△44.1
25年9月期第2四半期	25,209	2.9	2,606	27.8	2,562	27.2	1,333	△17.1

(注)包括利益 26年9月期第2四半期 858百万円 (△46.2%) 25年9月期第2四半期 1,596百万円 (△6.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第2四半期	41.45	—
25年9月期第2四半期	73.98	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
26年9月期第2四半期	45,676		20,142		44.0	
25年9月期	42,855		19,601		45.6	

(参考)自己資本 26年9月期第2四半期 20,077百万円 25年9月期 19,550百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	17.50	—	17.50	35.00
26年9月期	—	17.50	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	17.50	35.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,500	1.1	2,500	△39.8	2,300	△41.6	800	△54.4	44.45

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の3に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信 添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期2Q	18,221,860 株	25年9月期	18,221,860 株
② 期末自己株式数	26年9月期2Q	223,980 株	25年9月期	223,860 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年9月期2Q	17,997,957 株	25年9月期2Q	18,030,527 株

(注)自己株式数については、株式給付信託(J-ESOP)が所有する当社株式(190,000株)を含めております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	13
4. 補足資料	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する当社独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator) を展開し、CRO (医薬品開発支援) 事業、CMO (医薬品製造支援) 事業、CSO (医薬品営業支援) 事業、ヘルスケア事業、IPD (知的財産開発) 事業において、製薬企業の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。

医薬品業界におきましては、政府の成長戦略において医療関連産業活性化の方針が示され、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進するとともに、後発医薬品の普及や長期収載品の価格体系の検証を通じて社会保障費を抑制するための取り組みが打ち出されています。製薬企業は、研究開発費の増大や主力製品の特許切れ、個別医療の高まり等の事業環境の下、組織体制の最適化を図り、医薬品開発の迅速化と効率化を目指して、アウトソーシングを加速する傾向にあります。

当社グループが属する業界におきましては、これらのアウトソーシングニーズの高まりを受け、支援業務の多様化や顧客との連携強化を図っています。また、企業合併や異業種からの新規参入等の業界再編も進む中、市場規模は拡大傾向にあります。

[売上高及び営業利益]

当第2四半期連結累計期間においては、各事業領域の基盤を強化するとともに、個々のサービスの一層の充実を図ることにより、事業の収益性と生産性の向上及び事業間シナジーの追求に取り組みました。当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は25,506百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は1,743百万円（同33.1%減）となりました。

セグメント別概況は次のとおりです。なお、平成25年4月の組織変更に伴い、医療、製薬業界向けBPO (Business Process Outsourcing) ・人材サービス等を行う株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。セグメント別の業績の前年同期比増減額及び率につきましては、当該変更後の区分に基づいて比較しております。

<CRO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	10,098	11,729	+1,631 (+16.2%)
営業利益	2,225	2,589	+364 (+16.4%)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品開発支援に係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、市場拡大が見込まれる医療機器分野の開発支援体制を整備し、医療機器支援業務の強化を図っております。また、専門性と効率性を一層促進し、グローバル開発案件や治験国内管理業務等の支援業務を拡大しております。

売上高及び営業利益につきましては、モニタリング業務において新規受注及び既存案件が好調に進捗したこと、データマネジメント業務において既存案件が順調に進捗したこと、シミックPMS株式会社の売上が加わったこと等により、前年同期を上回りました。

<CMO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	8,094	6,610	△1,483 (△18.3%)
営業利益	893	163	△730 (△81.7%)

当事業においては、主に製薬企業の医薬品製造支援に係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、新規受託獲得のための営業体制及び製剤開発力の強化を図っております。受託製造業務においては、平成25年10月にシミックCMO株式会社が製剤開発センターを新設し、グループCMO各社の製剤設計技術及び製造技術を結集することにより、製剤開発分野へのサービス強化を促進しております。併せて、国内生産2工場（静岡、富山）を一元管理することにより、効率化に向けた施策を展開しております。また同月、英国の医薬品開発製造受託機関であるAesica Pharmaceuticals Limitedと協業覚書を締結し、日本・欧州・米国における事業拡大に向けて営業体制の構築を進めております。平成25年11月には、田辺三菱製薬工場株式会社の足利工場を平成26年4月に譲受け及び受託生産開始することに関する株式譲渡契約書を締結し、固形剤の受託生産力の向上及び注射剤の受注強化を図っております。

分析化学サービス業務においては、医薬品の品質保証及び薬物動態に係る試験の受託を強化するため、平成26年3月に生体試料中薬物濃度測定に強みをもつ株式会社JCLバイオアッセイの第三者割当増資を引き受け、当社の持分法適用関連会社といたしました。

売上高及び営業利益につきましては、シミックCMO株式会社において既存案件の製品の受託生産量が減少したこと、CMO事業の分析化学サービス業務において価格競争が激化していること等により、前年同期を下回りました。

<CSO事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	2,592	3,207	+614 (+23.7%)
営業利益	220	203	△17 (△7.7%)

当事業においては、主に製薬企業の営業・マーケティング支援及び医療、製薬業界向けBPO・人材サービスに係る業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、MR（医薬情報担当者）派遣業務における新規案件の獲得と大型案件に伴う採用活動の強化を図りました。

売上高につきましては、株式会社シミックエムピーエスエスのMR派遣業務及び株式会社シミックBSのBPOサービス業務において新規受注及び既存案件が好調に進捗したこと等により、前年同期を上回りました。営業利益につきましては、MR派遣業務の大型新規案件のための採用コストが先行して発生したこと等により、前年同期を下回りました。

<ヘルスケア事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	4,672	4,196	△476 (△10.2%)
営業利益	537	△20	△558 (－)

当事業においては、SMO（治験施設支援）業務、ヘルスケア情報サービスなど、主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進のための支援業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、SMO業務を行うサイトサポート・インスティテュート株式会社（以下、SSI）が平成22年に行った治験支援業務における身長データの不正記載に対し、SSIを含めグループ全体で品質管理体制及びコンプライアンス体制の強化及び再発防止策の徹底を通じてステークホルダーの皆様からの信頼回復に努めております。本件の影響により、SSIの新規受注が低迷しておりますが、回復に転じる兆しも見えつつあり、引き続き早期の受注回復に向けて注力しております。

売上高及び営業利益につきましては、SSIの新規受注が減少したこと、難易度の高い試験の増加等に伴いプロジェクトの原価率が上昇したこと等により、売上高が前年同期を下回り、営業損失が生じております。

<IPD事業>

(単位：百万円)

	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	増減額 (増減率%)
売上高	121	154	+33 (+27.3%)
営業利益	△418	△327	+90 (－)

当事業においては、診断薬や希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）等の開発及び販売に係る業務を行っております。

診断薬事業については、当社が腎疾患の診断を目的として開発した体外診断用医薬品「ヒトL型脂肪酸結合蛋白キット（販売名：レナプロ®L-FABPテスト）」の販路拡大と学術及びプロモーションの強化に努めるとともに、高感度測定が可能な改良型の開発を行っております。

希少疾病用医薬品については、販売している尿素サイクル異常症用治療薬「ブフェニール®（一般名：フェニル酪酸ナトリウム）」及び急性ポルフィリン症治療薬「ノーモサング®（一般名：ヘミン）」について、疾病認知度の向上を図るとともに、販売経費の節減に取り組んでおります。

当事業は診断薬等にかかる研究開発費の計上及び株式会社オーファンパシフィックにおける販売にかかる費用等の計上により、営業損失が発生しております。

〔経常利益〕

当第2四半期連結累計期間の経常利益は前年同期比820百万円減（32.0%減）の1,741百万円となりました。

主な減少要因は、前述の通り営業利益が減少したことによるものでありますが、営業外収益として持分法による投資利益28百万円や為替差益13百万円等、営業外費用として支払利息60百万円等を計上しております。

〔四半期純利益〕

当第2四半期連結累計期間の四半期純利益は前年同期比587百万円減（44.1%減）の745百万円となりました。

これは、経常利益の減少に加え、特別損失として固定資産除却損等75百万円の計上及び法人税等合計として前年同期比367百万円減の909百万円、少数株主利益として前年同期比68百万円増の10百万円を計上したことによるものであります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末比で2,821百万円増加し、45,676百万円となりました。これは、主に現金及び預金、有形固定資産の増加によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末比で2,280百万円増加し、25,534百万円となりました。これは、主に長期借入金及び退職給付引当金の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末比で540百万円増加し、20,142百万円となりました。これは、主に利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年9月期決算短信（平成25年11月6日付）にて公表いたしました業績予想から変更はございません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。

この変更は、中期計画に基づく大型製造設備の稼働や新規受託先の拡大施策の実行等により、CMO（医薬品製造支援）事業を中心として長期安定的な操業を可能とする製造受託体制が整備されることを契機として、減価償却方法の見直しを行った結果、投資の効果は安定的に発現すると認められることから、より合理的な費用配分を行うことを目的とするものです。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ197百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響については、「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 セグメント情報等」に記載しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,962	8,659
受取手形及び売掛金	7,695	7,568
商品及び製品	175	159
仕掛品	3,954	3,160
原材料及び貯蔵品	1,017	1,123
その他	3,093	3,471
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	22,891	24,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,319	7,074
土地	4,674	4,686
その他(純額)	4,472	3,747
有形固定資産合計	14,466	15,508
無形固定資産		
のれん	1,268	1,036
その他	859	1,029
無形固定資産合計	2,128	2,066
投資その他の資産		
投資有価証券	493	939
敷金及び保証金	1,304	1,287
その他	1,597	1,771
貸倒引当金	△26	△28
投資その他の資産合計	3,369	3,969
固定資産合計	19,963	21,544
資産合計	42,855	45,676

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,215	1,378
短期借入金	3,965	4,115
未払法人税等	1,404	995
賞与引当金	1,971	1,575
役員賞与引当金	23	—
受注損失引当金	287	323
その他	4,809	4,678
流動負債合計	13,677	13,067
固定負債		
長期借入金	5,459	7,976
退職給付引当金	3,412	3,695
その他	703	794
固定負債合計	9,576	12,467
負債合計	23,253	25,534
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,087	3,087
資本剰余金	6,292	6,292
利益剰余金	10,560	10,987
自己株式	△257	△257
株主資本合計	19,682	20,110
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△58	0
為替換算調整勘定	△73	△32
その他の包括利益累計額合計	△131	△32
少数株主持分	51	64
純資産合計	19,601	20,142
負債純資産合計	42,855	45,676

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
売上高	25,209	25,506
売上原価	18,783	19,889
売上総利益	6,426	5,616
販売費及び一般管理費	3,819	3,873
営業利益	2,606	1,743
営業外収益		
受取利息	6	6
受取賃貸料	7	7
為替差益	85	13
持分法による投資利益	39	28
その他	42	39
営業外収益合計	180	94
営業外費用		
支払利息	72	60
契約精算金	116	—
その他	36	36
営業外費用合計	225	96
経常利益	2,562	1,741
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	9	75
特別損失合計	9	75
税金等調整前四半期純利益	2,553	1,665
法人税、住民税及び事業税	1,199	1,034
法人税等調整額	77	△124
法人税等合計	1,277	909
少数株主損益調整前四半期純利益	1,275	756
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△58	10
四半期純利益	1,333	745

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,275	756
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	58
為替換算調整勘定	210	43
持分法適用会社に対する持分相当額	10	—
その他の包括利益合計	320	102
四半期包括利益	1,596	858
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,642	845
少数株主に係る四半期包括利益	△46	13

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,553	1,665
減価償却費	886	672
のれん償却額	199	231
受取利息及び受取配当金	△6	△6
支払利息	72	60
売上債権の増減額 (△は増加)	339	142
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△222	693
仕入債務の増減額 (△は減少)	△46	158
その他	535	△357
小計	4,309	3,261
利息及び配当金の受取額	6	68
利息の支払額	△66	△57
損害賠償金の支払額	△93	—
法人税等の支払額	△1,060	△1,428
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,095	1,843
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△128	△138
定期預金の払戻による収入	265	138
有形固定資産の取得による支出	△1,376	△1,685
有形固定資産の売却による収入	1	1
無形固定資産の取得による支出	△83	△289
関係会社株式の取得による支出	—	△331
出資金の払込による支出	△60	△55
短期貸付金の純増減額 (△は増加)	△47	61
その他	△17	△102
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,445	△2,402
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△550	△1,450
長期借入れによる収入	2,200	4,800
長期借入金の返済による支出	△498	△682
リース債務の返済による支出	△86	△112
配当金の支払額	△354	△318
自己株式の取得による支出	△212	△0
その他	—	△15
財務活動によるキャッシュ・フロー	499	2,220
現金及び現金同等物に係る換算差額	73	27
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,222	1,690
現金及び現金同等物の期首残高	8,144	6,810
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,367	8,500

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPD事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	10,005	8,080	2,345	4,656	121	25,209	—	25,209
セグメント間の内部 売上高又は振替高	92	13	246	16	0	369	△369	—
計	10,098	8,094	2,592	4,672	121	25,579	△369	25,209
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,225	893	220	537	△418	3,459	△852	2,606

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△852百万円には、セグメント間取引消去等△1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△851百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 平成25年4月の組織変更に伴い、株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当該変更後の区分方法により作成しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	CRO事業	CMO事業	CSO事業	ヘルスケア 事業	IPD事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	11,673	6,606	2,943	4,141	141	25,506	—	25,506
セグメント間の内部 売上高又は振替高	55	4	263	54	13	391	△391	—
計	11,729	6,610	3,207	4,196	154	25,897	△391	25,506
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,589	163	203	△20	△327	2,608	△865	1,743

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△865百万円には、セグメント間取引消去△0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△865百万円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」の「(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」に記載の通り、当社及び国内連結子会社は、有形固定資産の減価償却方法について、主として定率法を採用しておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法に変更しております。これに伴い、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間のセグメント利益がCRO事業で4百万円、CMO事業で170百万円、CSO事業で0百万円、ヘルスケア事業で4百万円、IPD事業で0百万円それぞれ増加しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

子会社株式の取得

当社は、田辺三菱製薬株式会社との間で、平成25年8月1日に基本合意書を締結し、田辺三菱製薬グループから当社へ製造事業及び工場資産を分割承継する目的で設立された、シミックCMO足利株式会社（田辺三菱製薬株式会社の完全子会社）の全株式を取得する株式譲渡契約書を平成25年11月29日付けて締結し、平成26年4月1日付けてシミックCMO足利株式会社の全株式を取得し、当社の完全子会社といたしました。

(1) 子会社取得の目的

シミックグループは、製薬企業の付加価値向上に貢献する独自の事業モデルであるPVC (Pharmaceutical Value Creator)のもと、CRO（医薬品開発支援）事業、CMO（医薬品製造支援）事業、CSO（医薬品営業支援）事業、ヘルスケア事業、IPD（知的財産開発）事業において、医薬品の開発、製造、営業・マーケティングのバリューチェーンを広範に支援しております。

CMO（医薬品製造支援）事業においては、日本、韓国、米国の3カ国の生産拠点において医療用医薬品、OTC医薬品などを受託生産しており、製剤開発センターを有するシミックCMO株式会社を中心に、製剤製造に関する技術水準の高度化及び製剤開発力の強化を図っております。今回の株式取得により、CMO事業の主力剤形である固形剤においては、生産能力の向上と、案件に応じた柔軟な生産対応を図ることが可能となります。また、注射剤においても新たな受注機会の創出につながるものと期待しております。

足利工場の現有製造品目の継続的な受託は、CMO事業の安定的な収益確保に資するばかりでなく、緊急事態に備えたバックアップ体制の構築にも有効と考えており、今後は足利工場を加えた国内外グループ5拠点の連携を通じて製造技術や製剤開発力の一層の強化を促進しつつ、既存顧客からの受注増や新規顧客の開拓が期待できることから、企業価値向上に資するものと判断し、シミックCMO足利株式会社を子会社化することと致しました。

(2) 株式取得の相手先の名称

田辺三菱製薬株式会社

(3) 取得する会社の名称及びその事業内容

- ① 商号 : シミックCMO足利株式会社
- ② 本店の所在地 : 栃木県足利市久保田町588番地3
- ③ 代表者の氏名 : 代表取締役会長執行役員 山口 進也
代表取締役社長執行役員 三谷 毅
- ④ 資本金の額 : 100百万円
- ⑤ 事業の内容 : 医薬品等製造

(4) 株式取得の時期

平成26年4月1日

(5) 取得した株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得した株式数 2,000株
取得価額 3,318百万円
取得後の持分比率 100%

4. 補足資料

受注の状況

受注実績

(単位：百万円)

報告セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年3月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年3月31日)		前連結会計年度 (自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
CRO事業	12,948	31,897	13,437	36,008	26,588	34,244
CMO事業	8,377	3,475	6,579	2,806	15,534	2,833
CSO事業	2,048	3,706	5,549	6,042	4,105	3,435
ヘルスケア事業	4,004	12,382	1,517	9,434	7,845	12,058
IPD事業	121	—	147	5	260	—
合計	27,499	51,461	27,231	54,297	54,334	52,572

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. CMO事業の受注残高は確定注文を受けているもののみ計上しております。顧客からは、年間ベースの発注計画等の提示を受けていますが、確定注文とは異なりますので受注残高には含めておりません。

4. 平成25年4月の組織変更に伴い、株式会社シミックBSは、その所属する報告セグメントをヘルスケア事業からCSO事業に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度の受注高並びに受注残高は、当該変更後の区分方法により作成しております。